

岩見沢市

緑の相談コーナーだより

No. 348

2014年 6月 1日 発行

〒068-0833 岩見沢市志文町 794 番地 いわみざわ公園 室内公園「色彩館」

セイヨウカナメモチ

Photinia × *fraseri* Dress

「バラ以外でバラ科の木と言えば?」と聞かれれば、サクラ、モモ、ウメ等々、美しい花や豊かな実が印象的な植物を挙げる方が多いことでしょう。残念ながら、これから紹介するセイヨウカナメモチを含むカナメモチ属(*Photinia*)の植物は、滅多に出てきません。



カナメモチ属は 30~40 種がヒマラヤ東部や日本から東南アジアにかけて分布、低木または小高木で、ほとんどが常緑です。カナメモチという名前は、外見がモチノキに似ており、扇の要(かなめ)に使われる固い材質の木材がとれることに由来します。セイヨウカナ

メモチは、本州中部以南原産のカナメモチ(*P. glabra*)と中国南部~東南アジア原産のオオカナメモチ(*P. serratifolia*)との交配種で、1940年頃にアメリカのフレーザー種苗商(アラバマ州バーミングハム)で作出され、1955年に *P.* × *fraseri* 'Birmingham' として売り出されました。その後、レッド・ロビン(Red Robin)やカーリー・ファンタジー(Curly Fantasy)などの品種が選抜され、'Birmingham' という但書は忘れられていきました。オオカナメモチより寒さに強く、カナメモチよりも病害虫に強いいため、世界各地の暖温帯で重宝されています。

樹高は最大 3~5m に達しますが、刈り込みに耐えるため生垣などに活用されます。葉は固く光沢があり、長さ 7~10cm、幅 2~3cm の流線型で暗緑色ですが、新芽の頃は枝ともども鮮やかな赤色で、剪定後に新たに伸びる新芽も赤いため、こまめな剪定は樹形維持と観賞価値アップの一石二鳥です。4~5月に、直径 1cm に満たない白い花を前年に伸びた枝先に群開させます。花後の赤い実は冬まで観賞できますが、当園「色彩館」では訪花昆虫に乏しいため結実しにくいのがつらいところです。

§ 公園近況 §

バラ園・・・バラの補植作業や土壌改良作業がほぼ完了し、今年は新たにスコッチ・ローズが仲間入り。ゆくゆくは20品種のコレクションになりそうです。来年からはハマナシよりも早くバラ園を彩ってくれる予定。これからの季節は病害虫との戦い、マルチング材の補充、ハマナスの丘の植栽、などなど開花までの怒濤の毎日はまだまだ続きます。

色彩館大温室・・・つるバラが花を終え、しばし落ち着いた風情となっています。早ければ6月下旬には大輪系繰り返し咲きのバラが二度目の花盛りを迎えるでしょう。ケアノサスの優しい空色の花は今月前半までが見頃で香水ベースを思わせる芳香が楽しめます。5月中旬から咲き始めているフェイジョアやタイサンボクは、今月中旬までが見頃でしょう。残念ながら当館には自家受粉では結実し

にくいフェイジョアが1本しかなく、実を見るのは難しそうです。6月中旬か下旬には、永らく蕾を持ち続けてきたキョウチクトウがようやく咲きそうです。

色彩館南国温室・・・ランタナや紅花ハイビスカスが切れ目なく咲き続けています。ブーゲンビリアのアーチでも所々で見られます。久しく花が途絶えていた黄色いハイビスカスも咲き始めましたが、より良い樹形のためにこの樹には一度丸坊主になっていただく予定であります。グアバが良く咲いてますおり、こちらはフェイジョアと違って自家受粉でよく結実しますので、今年の秋はうまくいけばグアバが収穫できるかもしれません。コーヒーやアレカヤシでも花芽を確認しましたが、咲くのは7月に入ってからになりそうです。

§ 5月の園芸相談から §

Q；毎年、ダイズを収穫すると一部の莢に赤みの強いオレンジ色の芋虫(体長1cm弱)が入っていて、豆が一部かじられています。対策を教えてくださいなのですが・・・

A；**マメシンクイガ**による典型的な被害です。越冬した幼虫が夏にサナギになってすぐ羽化し、新芽や若い莢に卵を産みつけ、幼虫は莢にもぐり込んで豆を食べて成長します。

スミチオン、マラソン、アディオンのいずれかの散布が有効です。**莢が2~4cmに育った頃に1回、それから7~10日後にもう1回散布**するのが最も効果的です。

マメ科植物を連作すると発生しすくなく、被害が増えます。できるだけ連作は避けましょう。マメシンクイガの成虫はあまり遠くまで飛べないので、ダイズを作る場所を毎年変えるだけでもある程度発生を防げます。

晩秋の初雪の前後に数日おきに畑を耕し、土をまんべんなく寒気に当てると、越冬幼虫を凍死させることができ、翌年の発生をかなり減らせます。

いわみざわ公園 なぜなにの箱

Q；バラ園のバラや色彩館の芝生立木の根元に小さな木片や樹皮が敷きつめてあるのは、どうしてですか？

A；植物の根元の地面を覆うことを、**マルチング**といいます。

木材や樹皮のチップによるマルチングには、主に以下の効果があります。

- 1) 雑草が生えにくくなる
- 2) 土が直接外気や日光にさらされなくなり、湿度や温度が安定する
- 3) 雨や灌水による土跳ねを防ぎ、病気防止や美観保持につながる
- 4) 土の団粒構造が壊れにくくなり、通気性や保水性が保たれる

ひとつき ひとつバラ



文；石渡 杏奈
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト；藤川 志朗
(イラストレーター)

第三回

原種

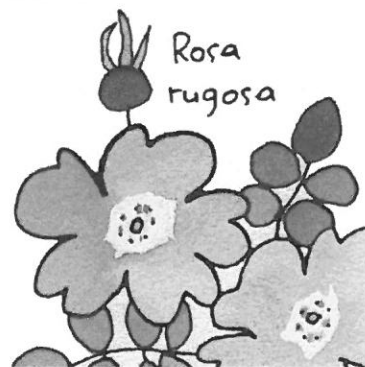
ハマナシ(ハマナス)

Rosa rugosa Thunberg

分布：東アジアの冷温帯から亜寒帯

ハーディネスゾーン：Z2

花期：繰り返し咲き



私の大好きなバラの原種のひとつです。よく茂る緑濃い葉の中にピンク色の一重の花がよく映え、開花期は辺り一帯がさわやかな良い香りに包まれます。ハマナスという和名は「浜梨」が訛ったものとされ、果実がナシと似ていることに由来します。花は5弁の一重で、花弁には紙細工のような皺があり、葉も皺の入ったような葉脈が特徴的。学名の「ルゴサ」はラテン語の「皺のある」を意味し、1775年にオランダ商館医師として来日したスウェーデンの植物学者ツェンベルクにより命名されました。北海道では主に海岸沿いを中心に分布し、本州の日本海側では島根県以北、太平洋側では茨城県以北に分布しています。北海道では、1970年頃までバラ水をつくるために豊富に自生していたハマナシの花弁を収穫し出荷していたそうですが、護岸整備などでハマナシが減少するにつれ、途絶えてしまいました。現在道内各地の緑化植栽で見かけるハマナシは選抜種であり、実は海岸沿いに植栽されている多くも例外でなく、自生ハマナシはもうほとんど残っていません。自生地保全のために増殖して補植す

る取り組みやハマナシの良さを知ってもらおうシンポジウムが各地で行われていますが、当たり前だった風景が私たちの無自覚な行動であつという間に失われてしまうのは本当に残念なことですね。当園の「ハマナスの丘」には国内最大規模と思われる道内各地の自生ハマナシのコレクションがあります。現在整備中ですが、今後時間をかけてじっくり充実させていく予定です。

ヨーロッパ北部で帰化しているハマナシは、プラントハンターのシーボルトによってオランダに持ち込まれたのが最初だったとか。ハマナシはその強健性、耐寒性、繰り返し咲き性、香りの良さなどから多くの交配に使用され、ハイブリッド・ルゴサ・ローズという系統としてモダンローズの発展に大きく貢献し、世界中で人気があります。当園でも約70品種のハイブリッド・ルゴサ・ローズが栽培されています。

さてさて、今年のいわみざわ公園バラ園は6月下旬のハマナシの開花からスタートします。駐車場の入口からハマナシのとても良い香りで、皆様をお待ちしております。

6月・7月の市民園芸講座の御案内

6月1日(日) 13:00~15:00 コンテナガーデンの基本

定員40人 参加費 2000円

講師：土谷 美紀 様 (恵庭サンガーデン)

6月14日(土) 13:00~15:00 小品盆栽・苔玉の楽しみ方

定員40人 無料

講師：吉川 茂 様 (岩見沢樹石会)

6月15日(日) 13:00~15:00 庭木・花木管理の基本

定員40人 無料

講師：川原 元信 様 (有限会社川原花木園)

6月21日(土) 10:00~12:00 バラの花後管理と夏越し

定員40人 無料

講師：工藤 敏博 様 (ローズgrower)

7月6・13・20・27日(日) 10:00~12:00 ローズツアー

定員40人 無料

バラ園スタッフがバラ園を御案内します。

7月6日(日) 13:00~15:00 バラ園の花でアレンジメント

定員30人 参加費 1000円

講師：富井 加代子 様 (フラワーデザイナー)

7月13日(日) 10:00~12:00 バラを美しく撮る

定員20人 無料

講師：若林 信夫 様 (ナチュラル写真家)

7月13日(日) 10:00~12:00 バラのスケッチを楽しもう

定員10人 無料

講師：藤川 志朗 様 (イラストレーター)

7月20日(日) 13:00~15:00 盆栽づくりの楽しさ

定員40人 無料

講師：吉川 茂 様 (岩見沢樹石会)

7月26日(土) 13:00~15:00 バラ園見学会

定員40人 無料

講師：工藤 敏博 様 (ローズgrower)

編集・発行 空知リゾートシティ株式会社 (いわみざわ公園指定管理者)

お問い合わせ先 いわみざわ公園 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー

0126-25-6111